



協会事業説明会 ビルクリーニング技能検定



公益社団法人全国ビルメンテナンス協会



次第



1. 受検者数の推移

複数等級化後の1級・2級・3級の受検者数

2. 合格率の推移

複数等級化後の1級・2級・3級の合格率（学科試験・実技試験）

3. 複数等級化時の等級ごとのねらいと今後の課題

4. 画像判定の検証

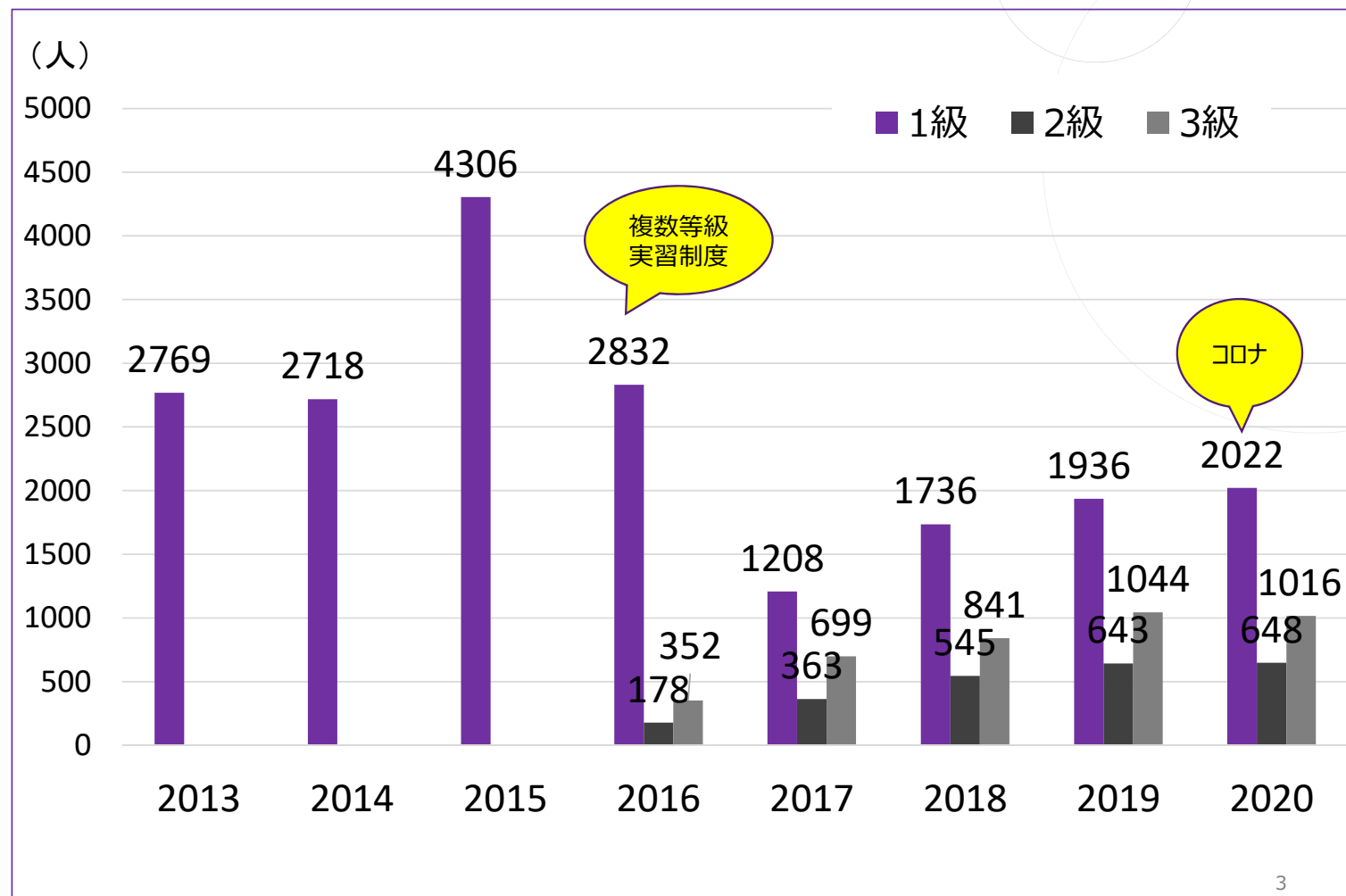
5. 質疑応答



1 - 1

- 2015年度の受検者増は、複数等級化前の駆け込み受検（作業試験内容が変わるため）
- 複数等級化直後は、受検者数が落ち込んだが、全ての級で微増傾向にある

受検者数の推移（実習生は含まれていません）

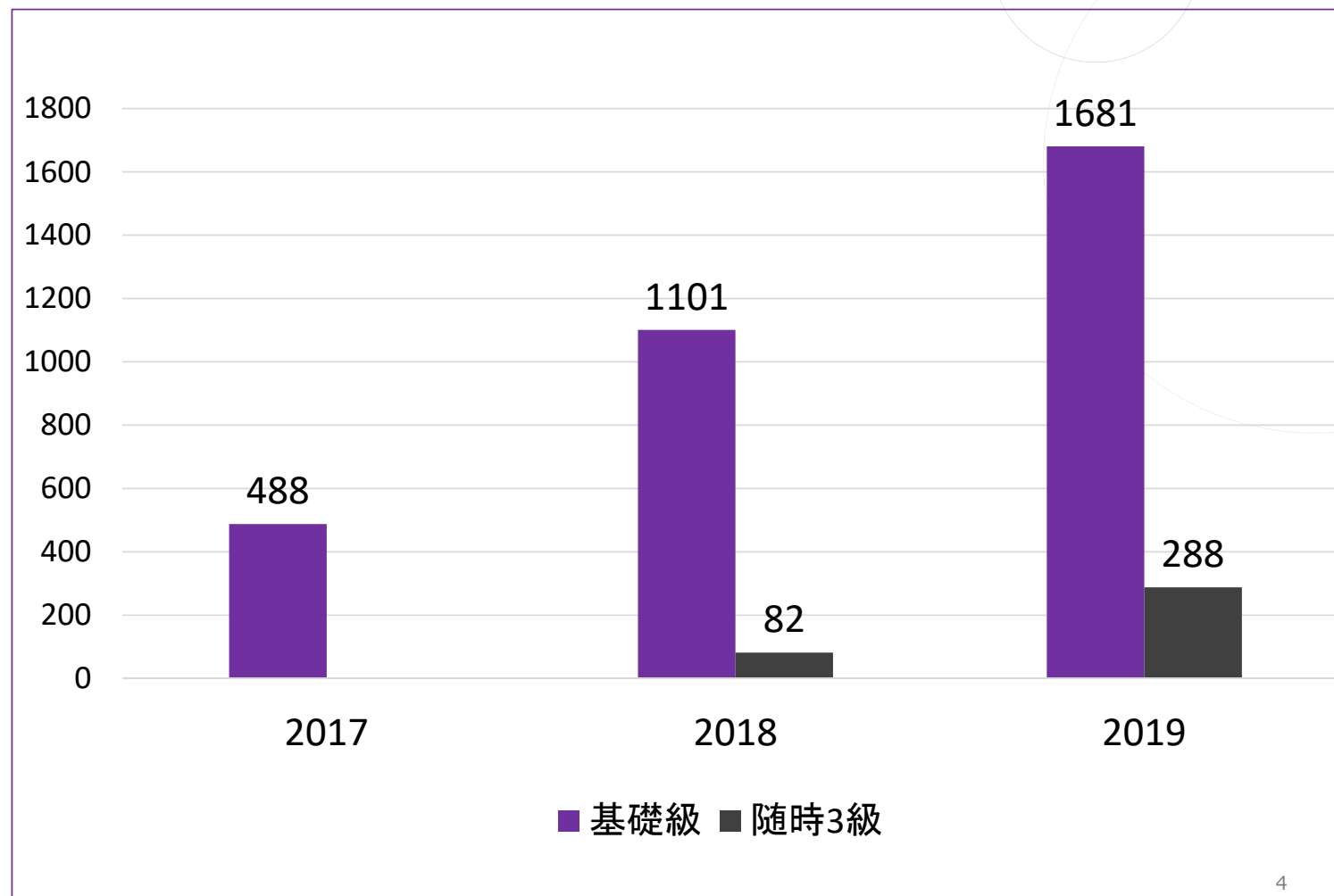




1-2

- 基礎級・随時3級ともに、再受検者はカウントしていない
- 随時3級は、実技のみの受検者を含む

受検者数の推移（実習生のみ）



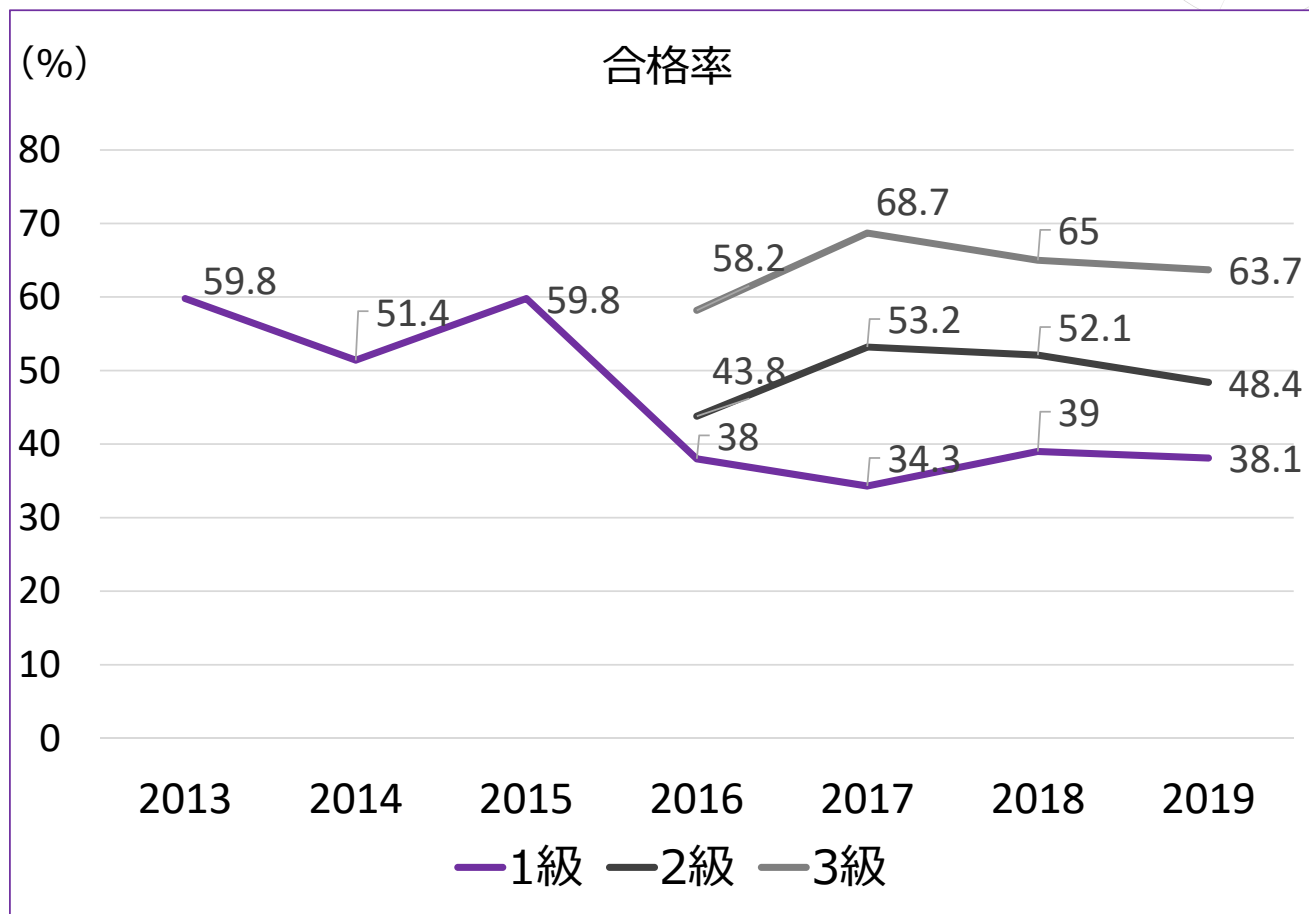


2-1

(参考) 全職種の平成30年度
平均合格率

等級	合格率
3級	47.0
2級	27.3
1級	31.6

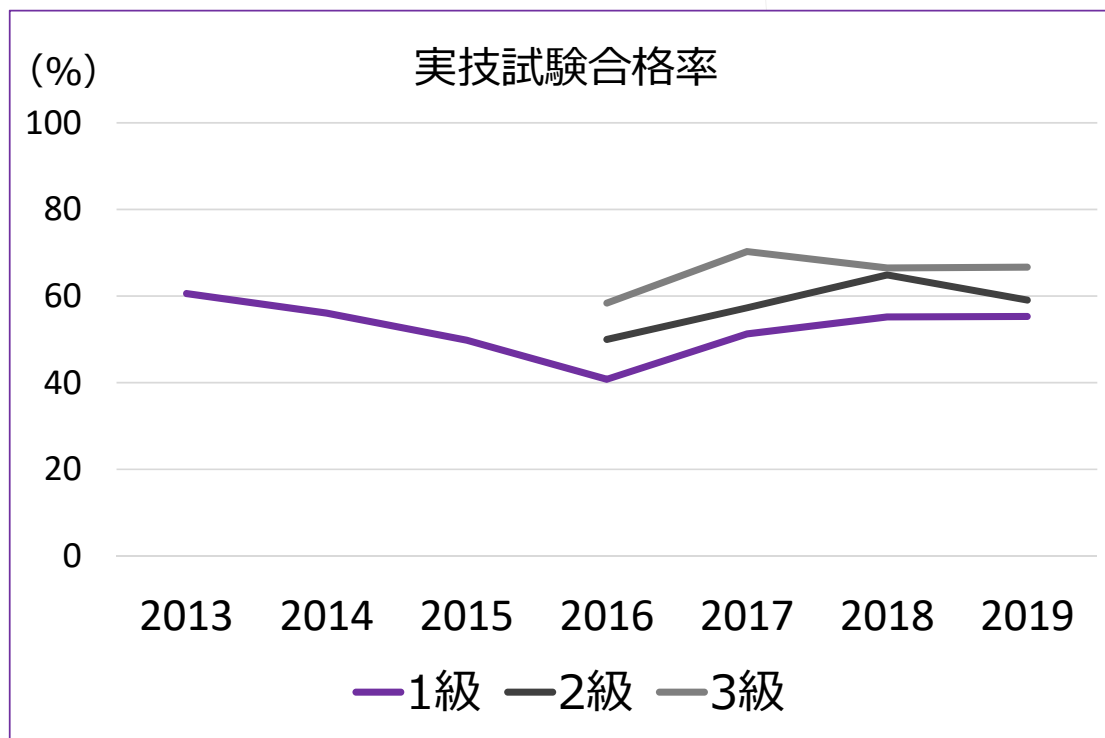
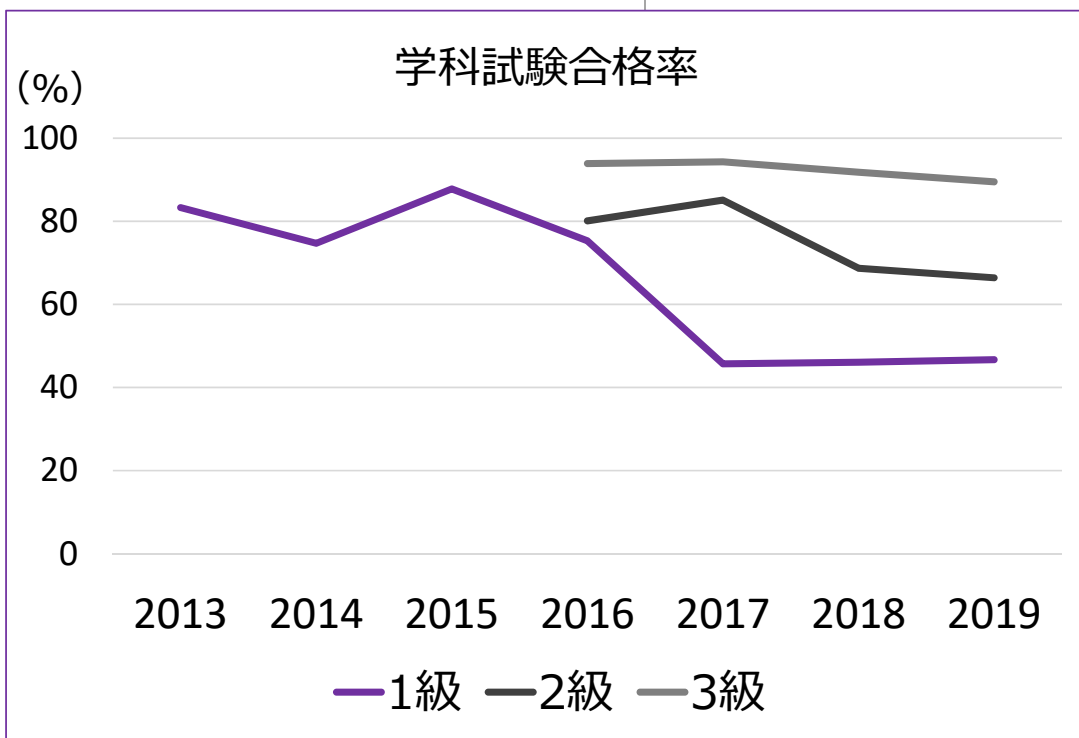
合格率の推移 (実習生は含まれていません)





2-2

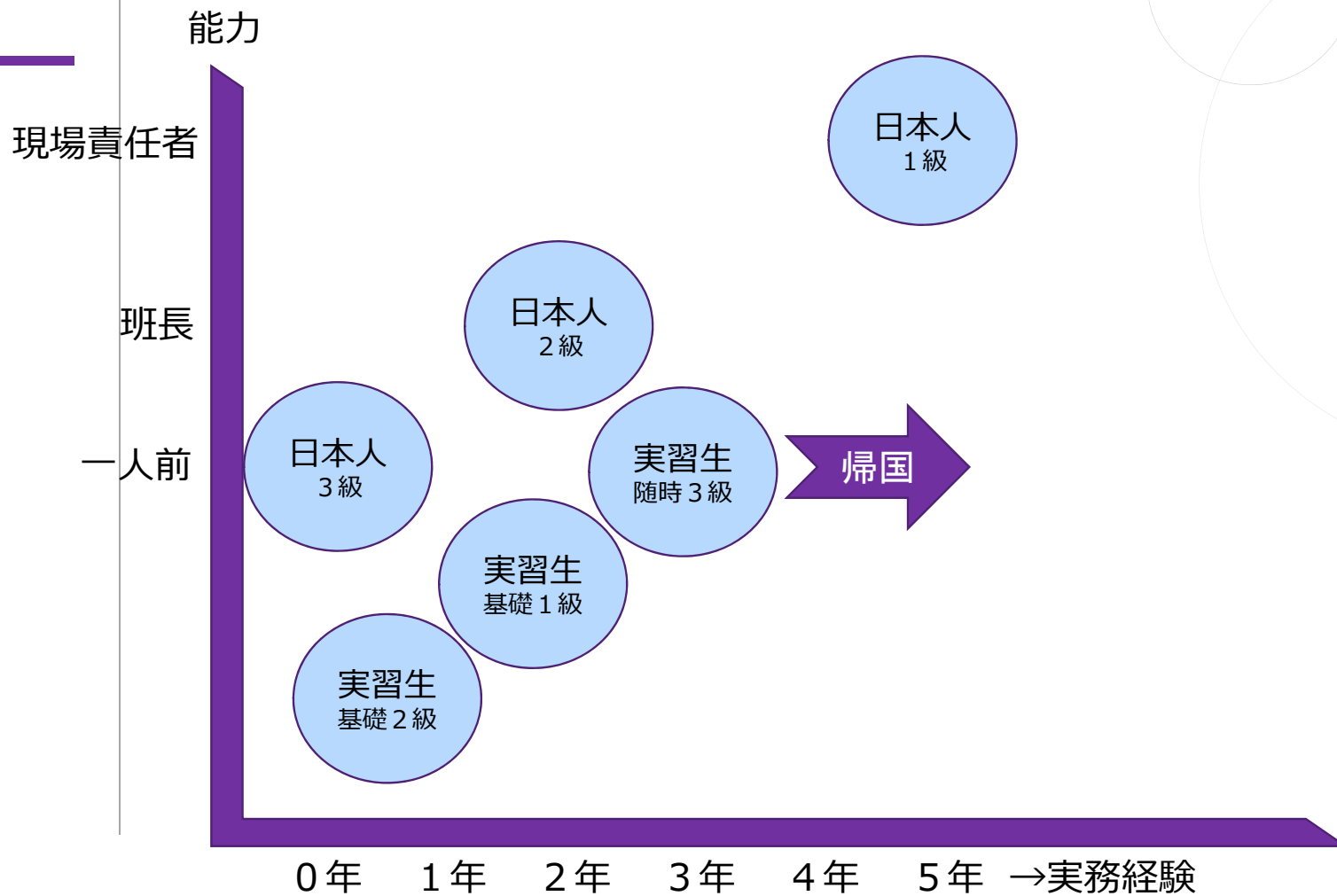
学科試験・実技試験の各合格率の推移 (実習生は含まれていません)





3-1

複数等級化時の等級ごとのねらいと今後

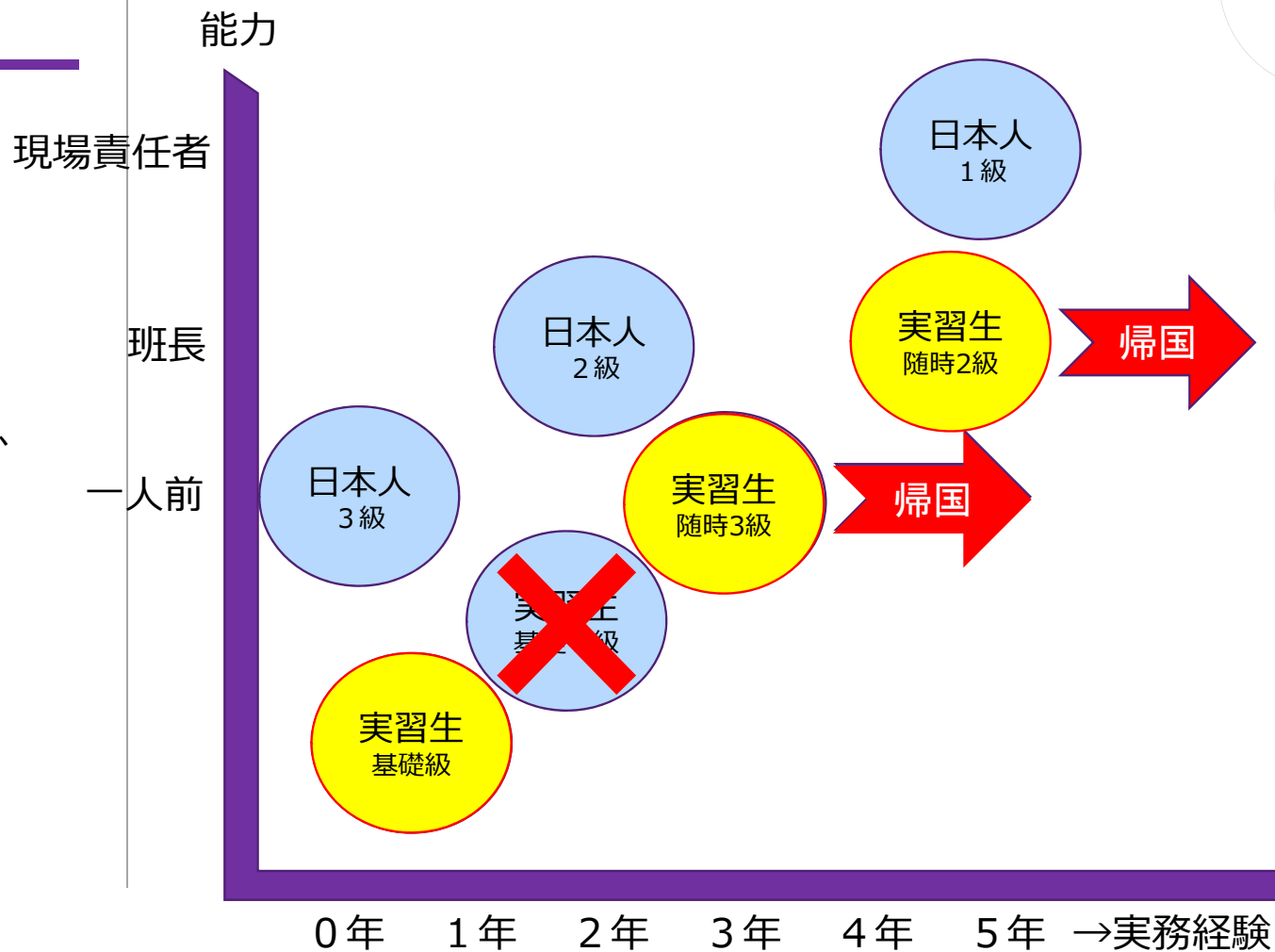




3-2

複数等級化時の等級ごとのねらいと今後

- H29年秋に実習制度が、3年から5年に延長され、受検時期も変更となった





3-3

複数等級化時の等級ごとのねらいと今後

	基礎2級	基礎1級	3級	2級	1級
1. 技能レベル	基本的な業務を遂行するために必要な 基礎的な技能及び知識	基本的な業務を遂行するために必要な 技能及び知識	初級技能者 が通常有すべき技能及び知識	中級技能者 が通常有すべき技能及び知識	上級技能者 が通常有すべき技能及び知識
2. 修得期間の目安(日本人の場合)	1年(2~6カ月)	2年(6カ月~1年)	3年(1~2年)	(2~5年)	(5年以上)
3. 到達対象	(具体的な)指示に基づく	(一定の)指示に基づく	一人前	班長/チームリーダー	現場責任者
4. 作業の段取り	器具・資材の準備・片付け(清掃、洗濯、保管)と消耗品の補充 * 具体的な指示に基づく作業手順の実施	資機材の準備・片付け(清掃、洗濯、保管)と消耗品の補充 作業動線の確保 * 一定の指示に基づく作業手順の実施	資機材の準備・片付け(清掃、洗濯、保管)と消耗品の補充 作業動線の確保 * 作業手順に基づく作業の実施	資機材の準備・片付け(清掃、洗濯、保管)と消耗品の補充 作業動線の確保 担当割り・人員配置 * 作業計画に基づく作業手順の作成	資機材の準備・片付け(清掃、洗濯、保管)と消耗品の補充 作業動線の確保 担当割り・人員配置 * 仕様(契約)に基づく作業計画の作成
5. 作業範囲	器具の使い方及びそれを修得するための各種清掃作業の補助 * 具体的な指示に基づく作業手順の実施	日常清掃作業(1/D) * トイレ日常清掃は除く * 一定の指示に基づく作業手順の実施	日常清掃作業(1/D) 定期清掃作業(1/M, 1/Y) * トイレ定期清掃は除く * 作業手順に基づく作業の実施	日常清掃作業(1/D) 中間清掃作業(汚れ具合) 定期清掃作業(1/M, 1/Y) 臨時清掃作業 * 作業計画に基づく作業手順の作成	日常清掃作業(1/D) 中間清掃作業(汚れ具合) 定期清掃作業(1/M, 1/Y) 臨時清掃作業 建物用途別清掃作業 * 仕様(契約)に基づく作業計画の作成
6. 資機材の整備	器具の正しい手入れと後始末 * 具体的な指示に基づく作業手順の実施	機械・器具の正しい手入れと後始末 機械の基本的な点検と補修 * 一定の指示に基づく作業手順の実施	機械・器具の正しい手入れと後始末 機械の点検と補修 * 作業手順に基づく作業の実施	専門的な点検・補修はメーカー等に依頼 * 作業計画に基づく作業手順の作成	専門的な点検・補修はメーカー等に依頼 * 仕様(契約)に基づく作業計画の作成
7. 試験課題	1. 器具の使い方 2. シーツの扱い方	1. 弾性床事務室清掃作業 2. 繊維系床会議室清掃作業	1. 弾性床ドライバフ作業 2. ガラス面洗浄作業 3. トイレ日常清掃作業	1. 弾性床スプレーバフ作業 2. トイレ定期清掃作業 3. 繊維系床汚れ取り作業	1. 弾性床表面洗浄作業 2. 繊維系床部分洗浄作業 3. 壁面洗浄作業



3-4

複数等級化時の等級ごとのねらいと今後

	基礎級	3級(随時3級)	2級(随時2級)	1級
1. 技能レベル	基本的な業務を遂行するために必要な 基礎的な技能及び知識	初級技能者 が通常有すべき技能及び知識	中級技能者 が通常有すべき技能及び知識	上級技能者 が通常有すべき技能及び知識
2. 修得期間の目安(日本人の場合)	1年(2~6カ月)	3年(1~2年)	5年(2~5年)	—(5年以上)
3. 到達対象	(具体的な)指示に基づく	一人前	班長/チームリーダー	現場責任者
4. 作業の段取り	器具・資材の準備・片付け(清掃、洗濯、保管)と消耗品の補充 * 具体的な指示に基づく作業手順の実施	資機材の準備・片付け(清掃、洗濯、保管)と消耗品の補充 作業動線の確保 * 作業手順に基づく作業の実施	資機材の準備・片付け(清掃、洗濯、保管)と消耗品の補充 作業動線の確保 担当割り・人員配置 * 作業計画に基づく作業手順の作成	資機材の準備・片付け(清掃、洗濯、保管)と消耗品の補充 作業動線の確保 担当割り・人員配置 * 仕様(契約)に基づく作業計画の作成
5. 作業範囲	器具の使い方及びそれを修得するための各種清掃作業の補助 * 具体的な指示に基づく作業手順の実施	日常清掃作業(1/D) 定期清掃作業(1/M, 1/Y) * トイレ定期清掃は除く * 作業手順に基づく作業の実施	日常清掃作業(1/D) 中間清掃作業(汚れ具合) 定期清掃作業(1/M, 1/Y) 臨時清掃作業 * 作業計画に基づく作業手順の作成	日常清掃作業(1/D) 中間清掃作業(汚れ具合) 定期清掃作業(1/M, 1/Y) 臨時清掃作業 建物用途別清掃作業 * 仕様(契約)に基づく作業計画の作成
6. 資機材の整備	器具の正しい手入れと後始末 * 具体的な指示に基づく作業手順の実施	機械・器具の正しい手入れと後始末 機械の点検と補修 * 作業手順に基づく作業の実施	専門的な点検・補修はメーカー等に依頼 * 作業計画に基づく作業手順の作成	専門的な点検・補修はメーカー等に依頼 * 仕様(契約)に基づく作業計画の作成
7. 試験課題	1. 器具の使い方 2. シーツの扱い方 (課題2はホテル等の現場に配属されている場合)	1. 弾性床清掃作業 2. ガラス面洗浄作業 3. トイレ日常清掃作業	1. 弾性床ドライ清掃作業 2. 繊維系床しみ取り作業 3. トイレ定期清掃作業	1. 弾性床表面洗浄作業 2. 繊維系床部分洗浄作業 3. 壁面洗浄作業

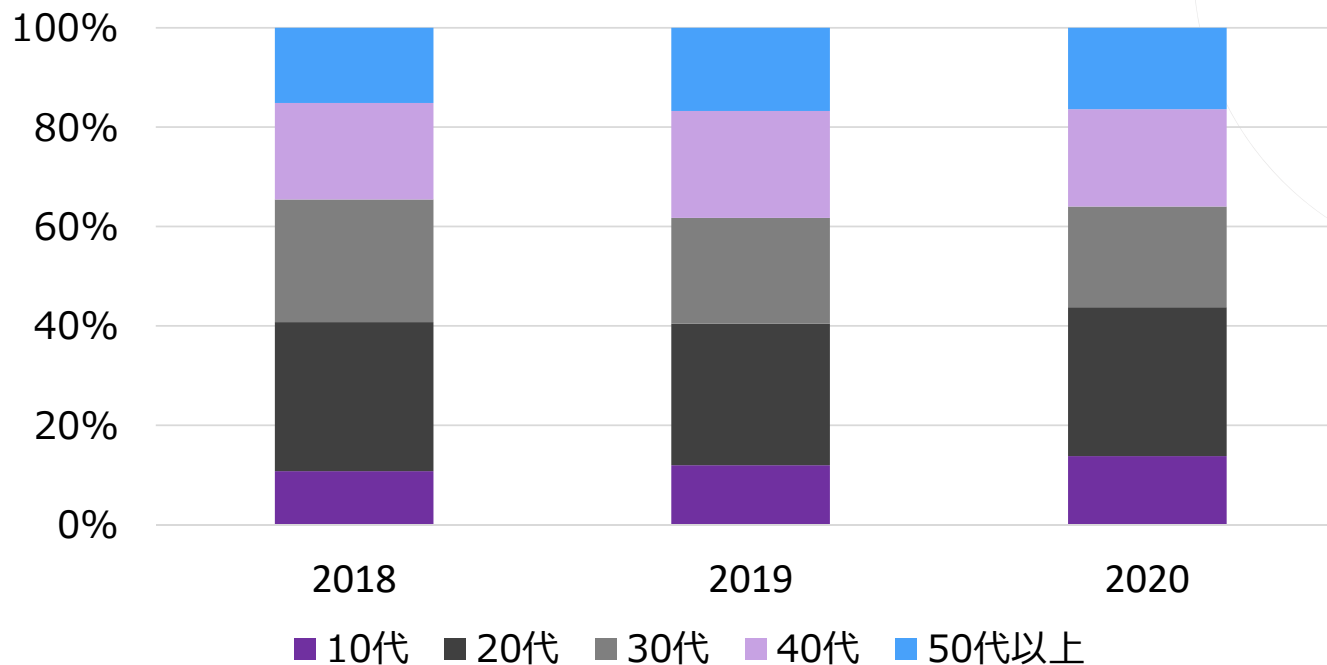


3-5

- 20代の受検が最も多い。
- 10代、20代、30代の受検者で約60%を占める。

複数等級化時の等級ごとのねらいと今後 - 3級受検者（実習生は含まず）の分析 -

受検者の年齢構成比



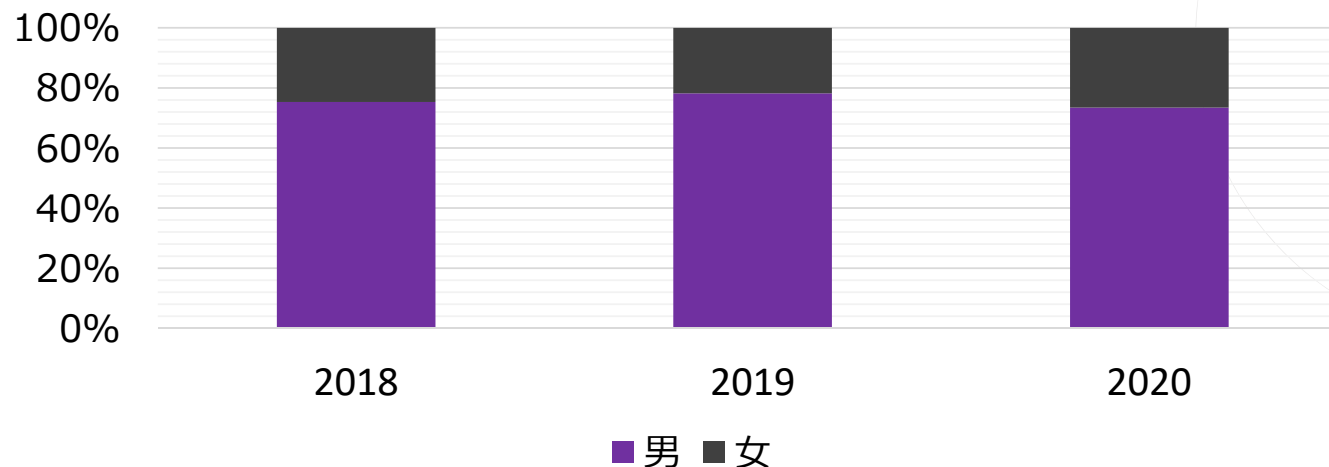


3-6

- 男性の受検が80%弱が多い。
- 特別支援学校の生徒は毎年コンスタントに受検がある。
- 全国協会では、実務経験0年で受検できる3級がビルクリーニング業界へ入る動機、離職率の低下につながると考えており、引き続き強化をはかる

複数等級化時の等級ごとのねらいと今後 - 3級受検者（実習生は含まず）の分析 -

受検者の性別構成比



年度	2018	2019	2020
特別支援学校受検者数	67人	71人	80人

複数等級化から4年が経過したので、改めて各等級の技術者像を明確にし、試験問題の点検・必要に応じて見直しを行っていきたいと考えている。

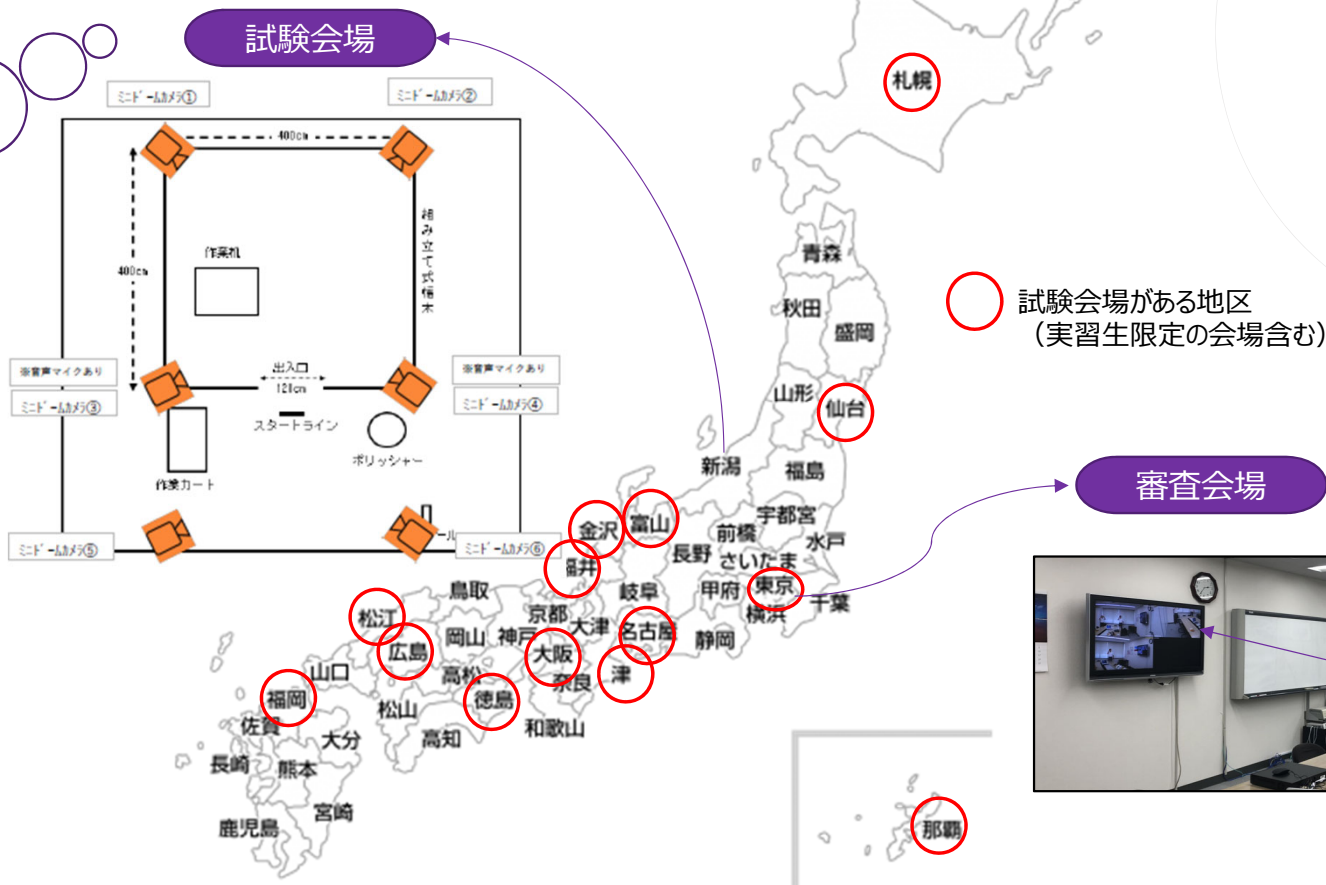


4-1

画像判定の検証

＜実施方法＞ 試験当日は、1名の受検者に対し、複数のカメラで収録する。受検者1名につき多方向からの収録された画像を1つのモニター画面に分割表示し、審査する。審査は、試験会場と別会場・別日で可能。

例えば、新潟県で撮影した実技試験が、東京の審査会場で審査を行うことができます





4-2

画像判定の検証

<ねらい>

- ・検定委員が地元を選任されていなくても、遠隔地での実技検定が可能
- ・検定委員が試験会場に出向かなくてよいため、開催地・開催回数などの拡大が可能
- ・画像がデータ化されるため、実施後の再確認が可能
- ・画像をデータ化することで、AI判定（合否判定の自動化）の検証も進めることが可能

<課題>

何回か実験・検証を重ね、次の課題解決に取り組んでいる最中です

- ・試験会場における肉眼で行う審査結果と差が生じないか
- ・失格などの対応はどうか
- ・画像データを消去してしまったときはどうか

など

<スケジュール（案）>

- ・2020年12月までに検証を重ね、課題を解決し、実施方法を確定する
- ・2021年度夏までに普及計画を立て、委員会及び厚労省と検証を行う